

## 3月11日・東日本大震災から10年 執行委員会で黙とうを捧げる



J R 総連は東日本大震災から 10 年目となる 3 月 11 日、執行委員会を開催し、冒頭東日本大震災でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、黙とうを捧げました。

J R 総連は、東日本大震災から 10 年を前に現地踏査と意見交換をおこないました(J R 総連通信 No.1426 掲載)。

あらためて 10 年の節目に東日本大震災を振り返り、再認識すべき**組織的な教訓は「絆」**です。安否確認や緊急支援物資の取り組み、ボランティア活動などは、人と人との繋がりがなければ成し遂げることはできませんでした。

一方、**社会的な教訓**は、燃料が不足する被災地へ貨物列車による緊急燃料輸送を可能としたことです。鉄道という全国ネットワークの重要性と優位性、社会的使命を再確認しようではありませんか。

また福島第一原発事故は未だ収束の見通しは立っていません。人々の命を奪い、生活を根底から覆す大惨事を目の当たりにしても、国は温室効果ガス排出量ゼロ政策において、またぞろ原発活用策を想定しています。

**原発事故がもたらした現実を直視**し、被災された方々と連帯・共闘の輪を広げ、脱原発社会をめざして政策の転換を訴えていこうではありませんか。